

2010（平成 22）年度 GBIF 日本ノード運営委員会 議事要旨

日 時：2011（平成 23）年 2 月 14 日（月）14:00～16:15

会 場：国立遺伝学研究所本会 2 階会議室

出席者：伊藤、水谷、松浦、菅原、山崎、城石、大久保の各委員

欠席者：菊池、三橋、小池、多田内の各委員

オブザーバ：神保宇嗣 東京大学大学院総合文化研究科

田中一成 文部科学省ライフサイエンス課・企画調整官

松村紘希 文部科学省ライフサイエンス課

佐藤清 NBRP 事務局長

事務局：研究推進課、知的財産室長

議事に先立ち、委員長からのオブザーバの紹介があり、文部科学省の田中企画調整官より挨拶があった。

【議事】

1. GBIF 日本ノード分担機関活動状況

（1）東京大学

伊藤委員より資料に基づき、既存の生物分布情報を国際標準（DawinCore2）に変換する手順の確立とその普及、日本産脊椎動物と昆虫類（九州大学・多田内先生提供）および維管束植物（千葉大学・梶田先生、東北大学・米倉先生提供）のリストの整備・公開、約 80 万件の観測データの整備、DNA バーコードの普及活動および管理用システムの構築について報告があった。また、IBOL の説明およびパンフレットのについて、紹介があった。

（2）国立科学博物館

松浦委員より資料に基づき、標本に基づく情報を提供するため、45 機関（自然史系博物館 39、大学 6）が参加するネットワークの構築、176 万件（2010 年 11 月末現在）の英語・日本語データの提供、既存データを国際標準フォーマットに変換するツールの改訂（データ項目の見直し）、人材（分類学者）のデータベースの構築、自然地名辞書（主に海洋地名）の整備、生物多様性情報に関する国内ワークショップの開催について活動報告があった。

（3）国立遺伝学研究所

菅原委員より資料に基づき、東京大学と協力による国内データの公開実績、データ公

開ツールの更新 (DiGIR から IPT へ)、データ変換ツールの拡充、GBIF 日本ポータルサイトの改訂と運用、GBIF の活用例について活動報告があった。

質疑応答等

- ・菅原委員より JBOLI サイトおよび科学博物館サイトからも遺伝研にあるポータルサイトへのリンクを用意していただきたい旨の依頼があった。
- ・神保オブザーバーより多様性に関するワークショップの内容をとりまとめたサイトには、2100 人ほどのアクセスがあったとの報告があり、このような方法も GBIF の普及に有用である旨の補足説明があった。
- ・NBRP からの協力状況について質問があり、ハツカネズミとシロイヌナズナから協力を得ているが、その他は具体的に依頼を受けていない旨説明があった。また、GBIF からも NBRP に情報の提供を働きかけていきたい旨発言があった。
- ・情報の開示の方法については GBIF 全体ではなく各ノードの独自性に任されているのかという質問があり、公開ポリシーは GBIF 本体には大枠としてあるが、細かい部分については各ノードに任されているというのが実情である旨説明があった。
- ・GBIF の活動における技術面の問題について質問があり、研究者が所有している観察データを収集することについては、論文にならないと提供がされないため、研究者がまとめたデータをデータベースに入れて公表するとそれがペーパーになるという仕組みを生態学会とともに構築している旨説明があった。
- ・論文からのデータ抽出について質問があり、論文より報告書から抽出することが多く、昔の分布記録は非常に貴重であるため、昔の紙媒体の報告書でも OCR をかけて電子化を始めている旨説明があった。
- ・どのようなデータコレクターがいるのかということについて質問があり、市民レベルでデータを収集する活動を多様性センターで行っている旨説明があり、今年度からは専門家があげたデータを集めて発信しているので、これを活用すればかなりのデータ数を収集できる旨補足説明があった。

2. GBIF 第 3 期ならびに GBIF 日本ノードの展望

・松浦委員より GBIF の動向について、資料により現状と第 3 期における活動について、報告があり、日本からの拠出金については、第 3 期より環境省から拠出されること及び国別標本・観察データ件数について説明があった。また、伊藤委員長により GBIF アジア地域ミーティングについて説明があり、アジアでの GBIF データの提供、参加国の数及び准参加国のスキルの向上に課題があること、また、GEO-BON が GBIF を一次データの保管場所と決めているため、今後はデータ提供が増加する旨報告があった。また、松浦委員よりアフリカやブラジル等の状況について補足説明があった。

質疑応答

- ・参加国を増やすために、プロジェクトの成果捕捉については、どのようにしているか質問があり、GBIF データを使用して論文・報告書についてはリストにして公開し、成功事例を示して認知度を上げることを目指している。ただし、提供したデータがどの程度使用されたかについては、現在では把握できる仕組みはできていないとの説明があった。
- ・ノードの活動に関わる経費は環境省から出ているのか質問があり、国内ノードの活動は文科省から出ており、拠出金のみ環境省から出ている旨説明があった。

最後に伊藤委員長より今年度の活動の実行ににご協力いただきたい旨の発言があり閉会した。